

点訳通信

86号

日本ライトハウス情報文化センター
点字製作係
発行責任者 竹下 亘

〒550-0002 大阪市西区江戸堀 1-13-2-8F
TEL 06-6441-1028 (点字製作係直通)

一人で初めてのところや慣れていない場所へ電車で行くときは、駅員さんなどに案内をお願いしています。先日、東京へ出かける際に、予定よりも一本遅い電車に乗ってしまったために新幹線に間に合うかどうかドキドキしながら新大阪駅を歩いていたところ、「どちらへ行かれますか？」と同じ方向から歩いてきた方に声をかけられました。「新幹線で東京まで…」と伝えると、「私も同じ新幹線なので、一緒しますよ」と言って、乗車するところまで同行していただきました。無事に新幹線に間に合った安心感とともに、なによりも声をかけていただいたことへの感激で、温かい気持ちで東京へ向かうことができました。

(点字製作係 おくのまり 奥野真里)



(C) WANPUG

【 休館のお知らせ 】

7月18日(土) 開室

8月11日(火)～15日(土) 夏期休館

*ご迷惑をおかけしますがよろしくお願いいたします。

*8月18日(火)から平常どおり開室します。

9月22日(火) 休館(国民の休日)

9月23日(水) 休館(秋分の日)

つい読み間違えてしまう漢字の例

よく知っているはずの漢字をうっかり読み間違えて点訳してしまう。読み合わせ校正でも指摘されず、2校正までいってしまう。そんなケースが見受けられます。形がそっくりの小さい漢字は誤読しやすいもの。特に意味や用法が似ていると、見直しをしてもなかなか気づきません。

以下、間違いの実例をご紹介します。

* [] 内は誤訳です。

漢字の形と用法がよく似ている例 —— 気づきにくいので注意

●「綱」と「網」

綱を引く [アミヲ□ヒク]

●「氷」と「水」

氷枕をする [ミズマクラヲ□スル]

●「病」と「症」

病状が和らぐ [ショージョーガ□ヤワラグ]

●「烏」と「烏」

烏の巣をみつける [トリノ□スヲ□ミツケル]

漢字の形がよく似ている例 —— 文脈によく注意

●「縁」と「緑」

サハラ南縁地帯 [サハラ□ミナミ□リョクチタイ]

●「靄」と「霞」

水平線の靄の中にほとんど紛れている。 [スイヘイセンノ□カスミノ□ナカニ□ホトンド□マギレテ□イル。]

●「荻」と「萩」

荻原 [ハギワラ] 萩原 [オギワラ] 萩野 [オギノ]

●「貪」と「貧」

ウナギは貪食である反面、長期の絶食にも絶えられるらしい。 [ウナギヲ□ヒンショクデ□アル□ハンメン、□チョーキノ□ゼッショクニモ□タエラレルラシイ。]

記憶があいまいなまま誤読する例 —— 辞書でまめに確認

●「帥」と「師」

統帥権を握る [トーシケンヲ□ニギル]

総帥 [ソーシ]

●「漸」と「暫」と「斬」

漸進的改革 [ザンシンテキ□カイカク]

暫時休憩 [ゼンジ□キューケイ]

斬新な発想 [ゼンシンナ□ハッソー]

●「殻」と「穀」

水素原子の電子殻 [スイソ□ゲンシノ□デンシコク]

文脈上つじつまが合ってしまい、誤読に気づかない例 —— 原本としっかり照合

●「斉（せい）」と「齋（さい）」

一斉攻撃しない [イツサイ□コーゲキ□シナイ]

●「綱」と「縄」

投げ綱を投げる [ナゲナワヲ□ナゲル]

●「涉」と「歩」

著しい進涉を見せた [イチジルシイ□シンポヲ□ミセタ]

●「轟」と「撃」

爆雷を受け轟沈だった [バクライヲ□ウケ□ゲキチンダッタ]

自分のなじみのある言葉の方に引きずられる例 —— 原本としっかり照合

●「論」と「倫」

倫理を追求する [ロンリヲ□ツイキュー□スル]

●「墮」と「墜」

急に墮落した [キューニ□ツイラク□シタ]

送り仮名が同じで字形がちょっと似ている例 —— 文脈から判断

●「嫁ぐ」と「稼ぐ」

●「浸す」と「侵す」

●「奮う」と「奪う」

濁音と半濁音の読み違いの例 —— 拡大鏡を使いましょう

●「ばらばら雨が降ってきた」→ [パラパラ]

●「ぽろぽろ涙を流した」→ [ボロボロ]

ルビの小文字をそのまま大きく読んでしまう例 —— 辞書で確認

●「政治学」→ [セイジガク (ポリティック)]

* 特に古い本では、ルビ中では小文字の「や ゆ よ あ い え つ」等が、普通の大きさに書かれているので、注意してください。

●教科書点訳連絡会セミナー報告

デジタル教科書時代、点字の行く末は？

おくのまり
点字製作係 奥野真里

6月13日（土）に日本点字図書館で行われた教科書点訳連絡会セミナー「ほんとにこれでいいの、デジタル教科書～視覚障害児童生徒の使用文字・点字の行く末」に参加しました。最近よく耳にする「デジタル教科書」。利用しやすいユニバーサル教材として高い学習効果が期待されています。しかし、デジタル教科書導入の検討において、点字教科書・教材との関わりについては十分な議論がなされていない現状があります。今回のセミナーでは、視覚障害児童生徒にとって最適な教科書提供のあり方について講演と研究発表が行われました。

○デジタル教科書とは？

「デジタル教科書」は、パソコンを使って文字情報や画像を手軽に見ることができ、マルチメディアデジターなど一部のデジタル教科書では文字部分を音声で読み上げさせることができます。優れた視聴覚教材として教育界で注目を集めていますが、そのユーザビリティについては、点字使用の児童生徒への配慮はまったく検討されていません。

現在、視覚障害者が点字を読む場合、紙に印刷して読む方法と、点字ディスプレイ端末を使って点字データを読む方法の二通りがあります。それぞれの方法のメリット・デメリットは、晴眼者が墨字を紙で読むのとパソコンの画面で読むのとの違いに似ているかもしれません。しかし、墨字ではできても点字では不可能なことがあります。まず、点字ディスプレイでは図の情報が読めないこと。次に1行ずつしか読めないことです。一般的に流通している点字ディスプレイ端末はディスプレイ部分が1行しかなく、点字を1行ずつしか表示できず、ページ全体を見ることも、図を見ることもできません。

最近の教科書は視覚的に見やすくレイアウトされているものが多く、点字の教科書も同様に、図による情報が増えています。図に表された情報を読めるか読めないかで生徒間に格差が生まれてはなりません。

現在、文部科学省でも、デジタル教科書・教材の位置づけに関する検討がされていますが、デジタル教科書における点字教科書使用児童生徒への対応については取り上げられていません。それどころか、「合成音声で聴けるのだから、視覚障害児童生徒も利用しやすい教材」として認識されている感さえあります。

学齢期の視覚障害児にとって語彙力や知識を養う上で文字は必須です。音声だけではどうしても聞き流してしまうところを、しっかり文字で確認することが大切であることは言うまでもありません。デジタル教科書を使用するようになった場合、点字による情報取得をどのように補っていけばよいのでしょうか。

○デジタル教科書利用の検討

文部科学省教科書科担当者のお話では、デジタル教科書の利用に関して、現在さまざまな検討がなされているとのことでした。

これからのデジタル化時代に求められる生徒の資質・能力、それを培う教育や教員の在り方かどうか。デジタル教材を導入した場合の教育上のメリット・デメリットが議論される中、学習の質の低下が懸念されています。デジタル教材を導入して楽しいという意見はあるものの、学力に反映されているかどうかは不確かで、かえって教育の後退を招くのではないかと。完全にデジタル化に移行するのではなく、紙媒体との併用が望ましいのではないかとという意見もあるようです。視覚障害児童生徒にとっても、デジタル教科書の点字・音声データの付与の検討は、点字教科書の重要性を踏まえた上で、なされなければなりません。

○研究開発の現状

次に発表された研究開発の取り組みを2例ご紹介します。

一つ目は、日本点字図書館電子書籍製作室の取り組み、マルチメディアデイジー*に点字情報を付加した事例です。Chaty Infty (チャティ・インフティ) というソフトを使い、テキスト情報を点字に変換したデータを編集し、それに音声を同期させていきます。人の手を介在しなければならないものの、音声とともに点字で内容を確認できることは大きな発展といえます。

今回のセミナーのデモンストレーションでは数式が取り上げられ、文字で何度も内容を確認することができ、有効性を感じました。

ただし、これらを製作するソフトが高額であることから今後はWEBアプリケーションを開発し、合わせて利用者による検証も進めていくそうです。

二つ目は、筑波技術大学における研究で、EPUB (イーパブ) *というフォーマットに点字を付加した事例。

もともと、筑波技術大学では視覚・聴覚の障害学生が学んでおり、障害の特性や状況に応じた学習環境を整え、きめ細かな対応が行われています。学生のニーズが多様化してきている中、点字データを活用したEPUB製作が取り組まれています。専用のブラウザを使って、学生が読みたい情報にスムーズに移動できるのが特徴です。

マルチメディアデイジーと同様、点字データと音声とを同期させ、両方で内容を確認

認することができます。発表事例で再生された教材では、写真や図が説明文（この例では著者の書き下ろし）で内容が補足されており、かつ、画像も表示されていたのが印象的でした。今後の課題として、現在の難解な作業を軽減し、効率的で簡易な製作方法を確立させること、製作者の確保といったことがあるほか、文字情報や画像を扱うことから著作権に関する問題解決もあげられました。

○「デジタル教科書と点字の融合性」はどうか

最後に日本文教出版の方から、今後のデジタル教科書と点字の融合性についての話がありました。

現在、12社の教科書会社が参画するCoNETS（コネッツ）という団体では、各出版社が共通した形のデジタル教科書を児童生徒に提供できるよう検討が進められています。ユニバーサルデザインの教科書を製作し提供することを目指しているとはいえ、教科書の完全デジタル化は果たして可能なのか、デジタル教科書も文部科学省の検定対象となるのか、写真等のデータをデジタル提供することに著作権者の許諾は得られるのか、またそのコストをどう捻出するのかなど、課題は多く残っています。

○学校における視覚障害児童生徒への配慮とは

パネルディスカッションで出た会場からの質問・意見の一部をご紹介します。

会場： デジタル教科書が普及しても、視覚障害の生徒たちは使いこなせず、取り残されてしまうのではないか。

パネラー： 通常学級で学ぶ視覚障害児童生徒に指導できるよう、教員が特別支援教育の資格を取得する仕組み作りを推進したり、各学級にICT専門員を配置してデジタル教材を使った学習がスムーズに行えるよう、支援体制を整えるなどの措置を進めている。

会場： デジタル教科書において視覚障害の生徒に配慮している点は何か。

パネラーA： 個々のペースに合わせて音声を聞くことができるが、点字を盛り込むことについてはまだ検証されていない。

パネラーB： デジタル教科書は「聞く」という技能習得においては有効だが、「(点字で)読む」ことも重要であり、紙媒体と併用していくことになると思う。

パネラーC： 学齢期の子供にとって点字は必須で、1ページ全体が表示される点字・点図用ディスプレイ端末がない限り、点字使用児童生徒にとっては、紙媒体がこれからも必要。

その他、写真など視覚的資料に関して、「画像とともに必ず写真説明を入れて製作できないか」「3D模型を用いた教材提供も可能なのではないか」「間違った情報が提供されないよう、伝え方には十分配慮すべき」といった意見もありました。

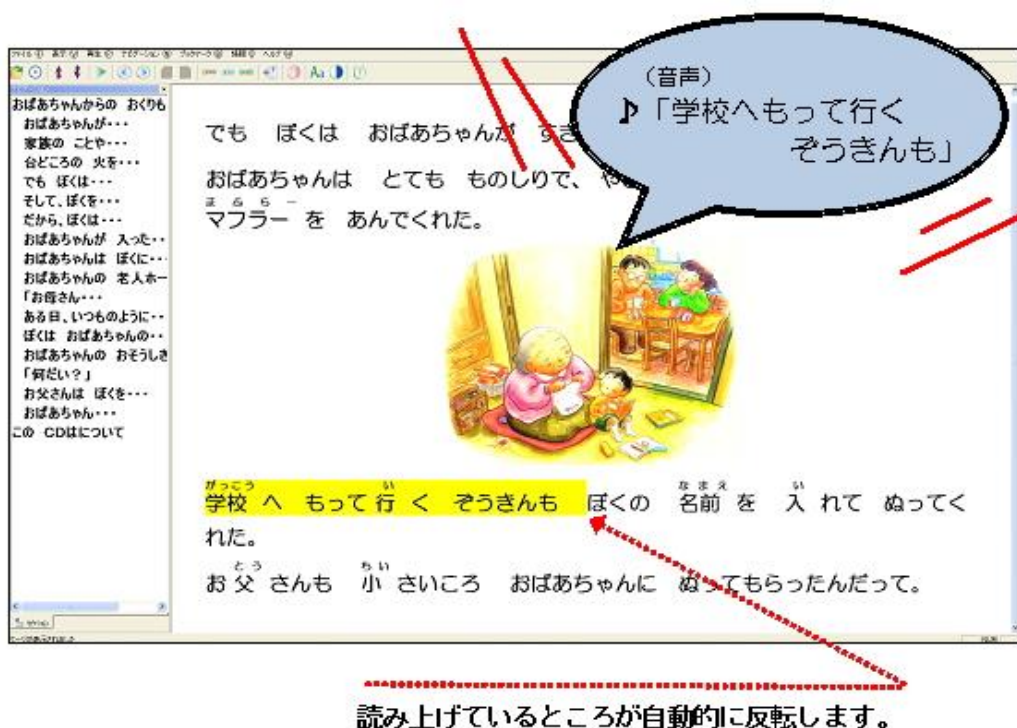
○デジタル教科書に移行しても必要なものは

徐々に、児童生徒の手元にデジタル教材が届けられることが現実味を帯びてきていますが、だれもが利用しやすいはずの教材に、視覚障害児童生徒にとってはまだまだ多くのバリアがあり、課題が山積しています。障害者差別解消法が来年の4月から施行されるのを目前に控え、これまで以上に子供たちのニーズが多様化することが予想されます。今後も、視覚障害児童生徒の学習環境を保障するために、デジタル教科書に移行しても点字や図の情報必須であること、またそれらの教材を使って指導できる教員を配置すべきといった課題を提示していかなければなりません。

(注)

マルチメディアデイジー* 文字、音声、画像情報が^{デイジー}DAISYというフォーマットで編集され、同期させながら再生することができる。

EPUB* 米国の団体が仕様を定めた電子書籍フォーマット。DAISY と基盤をともにすることから、今後のアクセシブルな電子書籍として期待されている。



↑ 「マルチメディアデイジー」の再生画面

〈お知らせ〉



●7月に校正勉強会を行います

*全2回

*7月10日、7月17日

*いずれも金曜日 13時～15時

*当館4階会議室

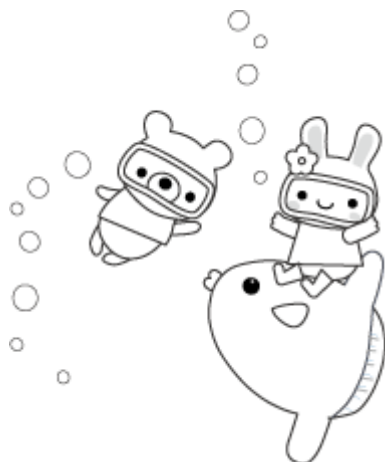
今回の校正勉強会では、校正の方法について各曜日の情報交換をします。各曜日で校正のやり方はどう違うか、問題点はないかを話し合ってください、当館全体で統一できるところはないか、校正作業をより円滑に行うにはどうしたらよいか、検討したいと思います。

各曜日から2～3名の方に参加していただけるようお願いいたします。

出席希望の方は8Fの受付表にお名前をご記入ください。

●10月から点訳ボランティア養成講習会を開講

これまでの「点訳技術講習会」を改め、「点訳ボランティア養成講習会」を本年10月より開講します。詳細は8月から館内の掲示板やホームページ等でお知らせする募集要項をご覧ください。



(C) WANPUG